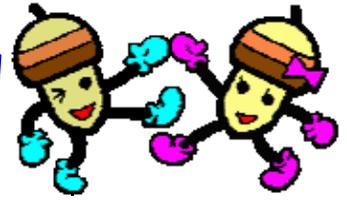


# とんぐり



パークセンターだより 第85号 2007年6月・7月号

## 季節外れ?? 春から初夏に鳴く虫たち

自然解説員  
よしおが あきら  
吉岡良明

「秋の夜長を鳴きとおす ああ面白い虫の声」、有名な童謡「虫のこえ」の一節です。この歌詞にもあるように、私たちはコオロギやキリギリスといった虫達の声は秋のものだ、と思い込みがちです。しかしそんな思い込みを覆すコオロギやキリギリスの仲間が身近に、もちろん21世紀の森と広場にもいるのです。今回はそんな季節外れ?な演奏者たちを紹介したいと思います。

### クビキリギスとシブイロカヤキリ

春も4月下旬、5月に近づき、暑さを感じるようになってきた日の夜、突然街路樹や草むらから「ジー……」と音が聞こえてくることがあります。まだセミが出てくるには早すぎるので、一体何の音だろう、と思った方もいらっしゃるかもしれません。これはクビキリギスというキリギリスに比較的近い昆虫の仕業です。キリギリス、コオロギの仲間は翅を使って発音するのですが、翅は成虫にならないと生えてこないで、幼虫では鳴くことができません。このクビキリギスという虫は成虫の状態です。越冬し、翌年の春にまた出てくるという生活史を持っているために、春から鳴き声を聞くことができるのです。一方日本の普通のコオロギ、キリギリスの仲間は春幼虫が孵化し、初夏から秋にかけてやっと成虫になって鳴き出す、そして冬前には卵を残して死んでしまう、という生活史を持っています。だから春には鳴き声を聞くことができないのです。これが日本ではコオロギ、キリギリスが秋に鳴く、ということが常識になっている原因でもあります。クビキリギスの声は春から初夏にかけてよく聞くことができますが、秋にも聞こえることがあるようです。ちなみに「首切り」という物騒な名前は噛み付くと首がちぎれても離さない、ということからきていていると言われていました。確かに噛まれると痛そうな真っ赤で鋭い大顎をもっており、「血吸いバツタ」というこれもまた物騒な呼び方をされることもあります。実際はイネ科の穂等を好む草食性昆

虫で血を吸うことはありませんが、うっかり噛みつかれないようにご注意ください。

21世紀の森と広場ではシブイロカヤキリ(図1)というクビキリギスに近い仲間も時折見ることができます。この虫もクビキリギスと同じように成虫の状態越冬し、4月下旬から7月ごろまでイネ科草本<sup>そうほん</sup>の草むら等でクビキリギスよりしわがれた声で「ジャー……」と鳴いているのを聞くことができます。クビキリギスとよく似たとんがり頭をしていますが、クビキリギスほど頭はとがっておらず、後脚<sup>こうきやく</sup>も短いためがっしりしているという印象を受けます。またクビキリギスは緑色の個体も褐色<sup>かつしよく</sup>の個体も見られますが、この種は褐色の個体しか見られません。慣<sup>な</sup>れればすぐに見分けがつくようになります。



図1

### シブイロカヤキリ

普段はうつぶせの状態<sup>かく</sup>で葉にぴったりとくっついて隠れている。後脚が短いのは隠れやすいからかもしれない。

### キンヒバリ

5月から7月にかけて、園内のヨシ原の中から「リッリッリッリッリーー」と繰り返す、クビキリギスやシブイロカヤキリとは違ったかわいらしい声が聞こえてくることがあります。ヨシ原の中には入っていくのは難しいので、どんな姿をした虫が鳴いているのかなかなか確かめることができません。非常に気になるところですが、この声の正<sup>しょうたい</sup>体はキンヒバリというコオロギに比較的近い昆虫です。スズムシをずっと小さくして色<sup>あわ</sup>を淡い茶色にしたような虫ですが、光があたりと翅がその名のとおり金色<sup>かがや</sup>に輝いて見えることもあるようです。

夏になるとセミが、秋になると他のコオロギやキリギリスの仲間が鳴き出しますが、今年からは春～初夏にも鳴き声を聞かせてくれる虫がいることを意識して公園を歩いてみませんか？他の季節とはまた一味違った自然の声を楽しめるかもしれません。

# ボタンとシャクヤク

みどりの相談員  
のくちのりつぐ  
野口宣二

「立てばシャクヤク、すわればボタン・・・」の俗諺ぞくげんにも、また各種美術工芸品や俳句の題材としてつかわれたりとわれわれの日常生活の中にすっかりとけこみ、なじまれ、日本の花になりきっているボタンもシャクヤクも、実は中国が原産の植物なのである。

最近、この中国うまれだが「日本の花」になったボタンとシャクヤクの人気が高まり、苗の生産も増大し、栽培を楽しむ愛好家が多く見られる。それぞれの栽培のあらましをのべてみよう。

## - ボタン -

現在、日本には200種類以上の品種があり、その大部分は日本で改良されたものであり、中国、フランスその他の外国種はわずかである。これらの品種は現在も国内用ばかりでなく、海外に輸出され人気を高めている。



実用的には接ぎ木はんしよく繁殖が行われている。接ぎ木の時期は9月、シャクヤク台とボタン台とあるが、シャクヤク台は生産単価が安い根の張りが小さく鉢植えにも向いているのでほとんどがシャクヤクの実生台みしょうが用いられ、1～2年苗で流通している。

植え付け時期は9月下旬から10月中旬頃、排水のよい土壌どじょうが適し、湿度の高い土壌では根ぐされをおこしやすいので注意。ボタンは一度植え込んだらなるべく植えかえをしない方がよいので将来を見越して株間を広く植え付ける。90～120cmの株間を保ちたい。植込みの深さは接ぎ目が3～5cmぐらい土中にはいる程度がよい。鉢植えの場合は30cm鉢に1本植えとする。

ボタンは、多肥を好むので元肥をしっかり入れ、2～3月の芽出し肥、花後のお礼肥を忘れないことが大切である。花後の結実けつじつは樹の勢いきおいを弱めるので、なるべく早く花首のところで切りとり、樹の充実をはかる必要がある。花芽の分化（花芽の形成）は7月上旬なのでその後はなるべく早く不用の芽をとりぞくとよい。特に新梢しんしょう以外の古い幹の芽や地下部から急にのびた新芽はすみやかにと

りさる。これを怠ると、それより上の芽の発育が止ったり、枯死することもある。

### - シャクヤク -

原産地は、中国・モンゴル・北朝鮮などで、その昔中国・モンゴル地方では芽を食用に、種子を粉にしてお茶に、根はスープに利用したといわれている。近年は欧米で改良されたヨーロッパ種が主流であるが、それに在来種の日本シャクヤクの交配が行われ切り花用だけでなく、花だん用としても人気が高い。



植え付け時期は9月下旬から10月中、株分けはこの時期に行なう。排水のよい腐植質にとんだ土が良く、シャクヤクもボタン同様に一度植えつけたら、数年そのまま植えかえず肥培を続けた方が花立ちがよく立派な花が咲くので植え付けはやや広めの間隔をとるとよい。覆土は芽の上3～5cmぐらいがよく多肥を好むので牛糞堆肥等を施すとよい。翌年からは9～10月に元肥・2～3月に追肥を行い肥培をこころがけます。

ツボミがあらわれたら、小さいうちに頂端のツボミを1つだけ残して摘みとると品質のよい花がみられます。



## みどりの相談室

パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738  
ハナミツバチ

# クズに集まる虫たち

自然解説員  
加藤裕一

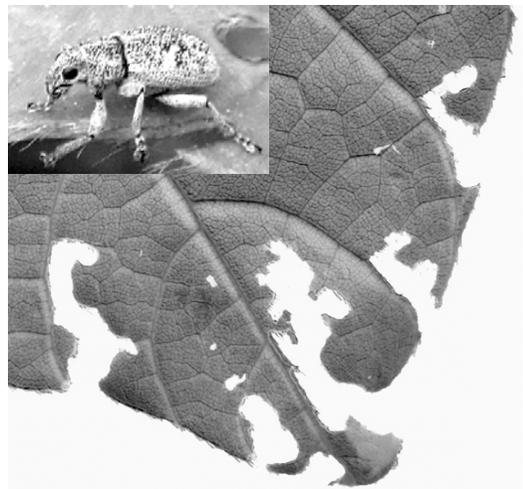
柔らかで瑞々しい新緑の季節が過ぎ、野山の緑は一段と濃さを増し、力強くなってきました。そんな季節に頭角を現してくるのがつる植物の仲間で、中でも特に目立つのはクズではないでしょうか。クズは、4月頃は他の草などに紛れて目に留まることは多くないのですが、5月にもなると急速に繁茂し始めます。そして6月以降は、辺り一面がびっしりとクズに覆われてしまった光景をあちらこちらで見かけます。

クズと言えば、葛湯や葛餅、葛切りなどを思い浮かべる方も多いでしょう。また、葛根湯という漢方薬もご存知の方が多くかと思えます。これらの他にも、丈夫なつるを縄として利用したり、つるで籠を編んだり、葉を家畜の餌にしたり、新芽や花などは食用にしたり、実に利用価値の高い植物でした。しかし最近では、このような利用のされ方はめっきり減り、私たちの生活とクズの関係は薄れつつあります。逆に、成長があまりに旺盛なため、植林地では木々を弱らせたり、電線などに絡みついて問題になったりして、厄介者として扱われることも多くなっています。

初夏から秋にかけて草むらや林の縁などで旺盛に繁茂するクズですが、豊富にあるこの植物は虫たちに大人気のように、様々な種類の虫がクズを食べたり住処にしたりしています。今回は、その中から代表的で、なおかつ個性豊かな色・形・模様をしているものを3種類紹介したいと思います。

## < コフキゾウムシ >

“ゾウムシ”とは、細長く伸びた口がゾウの鼻に似ているところから付けられた呼び名ですが、中には口が短い仲間もいて、このコフキゾウムシも口が短い種類の一つです。白っぽい粉をふいたように見えるところからその名が付いた、5ミリちょっとのかわいらしいゾウムシです。葉の縁から何本も入り江のように食べられた跡があったら、その近くを



探してみてください。多い時は1枚の葉に10匹前後見つかることもあります。急に近づいたり葉を揺らしたりすると、すぐに葉の裏に回り込んだりポトリと落ちて見つからなくなったりするので、観察する際は静かにゆっくりと近付くと良いでしょう。間近で観察すると、一匹一匹それぞれ少しずつ色調が異なり、青っぽいもの、黄色っぽいもの、緑っぽいもの、などがいて、見ていて飽きることはありません。

#### < オジロアシナガゾウムシ >

お腹の下半分が白く、脚が長いゾウムシという名前ですが、実際には脚はそれほど長くありません。太めでがっしりした口をしていて、体は黒と白の2色、大きさは1センチほど。全体的にずんぐりしていて、愛嬌のある風貌をしています。虫眼鏡でのぞいてみると、黒い部分は小さなでこぼこが目立ち、鈍い



光沢もありますが、白い部分はざらざらしているように見え、なかなか複雑な表面です。茎に抱きつくようにつかまっている姿をよく見かけるのですが、黒と白の入り混じり具合が鳥のフンのように見えるかもしれません。茎に産卵し、幼虫はその中で育つのですが、その部分が徐々に膨れて、最大5センチ近くになることもあります。

#### < マルカメムシ >

その名の通り、丸いかメムシです。しかし丸いといってもまん丸ではなく、なんとも表現の仕方が難しい形です。巾着型とでもいいでしょうか、あるいはカウベル型とでもいいでしょうか。やや下ぶくれで角張ったところが無く、横から見ても厚みがあり、ユニークな形をしています。大き



さは5ミリくらいで、葉や茎に数匹~十匹以上集まって汁を吸っているのをよく見かけます。このカメムシも、機会があれば虫眼鏡で拡大して観察してみてください。その表面の模様が想像以上に細かく緻密であることに驚かされるのではないかと思います。



# 6月・7月の催し物



講座	日時	対象・人数	講師	費用	受付
園芸教室 「生垣の剪定と刈り込み (実習有)」	平成 19 年 6 月 2 日 (土) 13:30 ~ 15:00	どなたでも 25 名	みどりの相談員 野口宣二氏	無料	受付 終了
野草ウォッチング (雨天中止)	平成 19 年 6 月 9 日 (土) 10:00 ~ 11:30	当日先着 25 名	自然解説員 加藤裕一氏	無料	当日
園芸教室 「観葉植物の挿木~ふやし方~(実習有)」	平成 19 年 6 月 9 日 (土) 13:30 ~ 15:30	どなたでも 20 名	みどりの相談員 青島尚祐氏	無料	受付 終了
昆虫ウォッチング (雨天中止)	平成 19 年 6 月 10 日 (日) 10:00 ~ 11:30	当日先着 25 名	自然解説員 吉岡明良氏	無料	当日
展示 「押し花展」	平成 19 年 6 月 12 日 (火) ~6 月 17 日 (日)	どなたでも	現代押し花アート	無料	-
展示 「押し花作品展 ~花たちの語らい~」	平成 19 年 6 月 19 日 (火) ~6 月 24 日 (日)	どなたでも	松戸市押花連盟	無料	-
みどりの教室 「絵手紙で季節の花を描こう」	平成 19 年 6 月 29 日 (金) 10:00 ~ 12:00	どなたでも 30 名	絵手紙わの会 萩原典子氏	200 円	6/1 ~
園芸教室 「梅雨から夏に咲く花の手入れ」	平成 19 年 7 月 1 日 (日) 13:30 ~ 15:30	どなたでも 45 名	みどりの相談員 小林喜代次氏	無料	6/15 ~
展示 「花の旅日記 05」	平成 19 年 7 月 3 日 (火) ~7 月 8 日 (日)	どなたでも	自然解説員 川端祥子氏	無料	-
野草ウォッチング (雨天中止)	平成 19 年 7 月 8 日 (日) 10:00 ~ 11:30	当日先着 25 名	自然解説員 川端祥子氏	無料	当日
園芸教室 「観葉植物で作るディスプレイガーデン」	平成 19 年 7 月 15 日 (日) 13:30 ~ 15:00	どなたでも 24 名	みどりの相談員 丸尾三恵子氏	1,000 円	6/15 ~
プロナチュラリスト 佐々木洋の真夏の昆虫観察会	平成 19 年 7 月 22 日 (日) 10:00 ~ 15:30	小学生対象 30 名	プロナチュラリスト 佐々木 洋氏	無料	7/1 ~
昆虫ウォッチング (雨天中止)	平成 19 年 7 月 29 日 (日) 10:00 ~ 11:30	当日先着 25 名	自然解説員 田中宏卓氏	無料	当日

注) 予定に変更が生じる場合がございますので、  
詳細はパークセンターまでお問い合わせ下さい。



# しっち 湿地の観察会

自然観察舎では自然解説員と一緒に「自然生態園」の木道を歩く観察会を実施しています。費用は無料です。 平日は自然解説員は同行しません。

## 【実施時間・実施日】

実施時間	日曜日・祝日	土曜	平日
10:30～10:50			
11:30～11:50			
13:30～13:50			
14:30～14:50			
15:30～15:50			

月曜日は休館日のため観察会は実施しません。

【定員】 先着25名（当日受付）

【受付】 自然観察舎 窓口

【電話】 047-340-4140

## ご来園の皆様へお願い

安全、快適に公園を利用していただくため、本公園ではいくつかのルールがあります。

**自転車**（キックボード含む）の乗り入れ、**ペット**の持ち込み、**テント**設営、**魚釣り**（たこ糸を使ったザリガニ釣りはOK、テグスは不可）などは禁止となっています。

また**動植物の採集**や鳥などへ**エサをやる**こともかたくお断りしています。きれいな花もみんなで採ったら無くなってしまいますし、<sup>かわい</sup>可愛いからと、人間の食べ物を鳥などにあげるとお腹<sup>なか</sup>をこわしたりして、かえってかわいそうなことになってしまいます。

ルールを守って楽しく遊んで下さいね。

発行日：2007年6月1日  
 発行：21世紀の森と広場パークセンター  
 開館：9:00～16:30  
 7月21日～8月20日の間は  
 9:00～18:00  
 月曜休館（祝日開館/翌日休館）  
 〒270-2252 松戸市千駄堀269  
 TEL 047-345-8900  
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。

